



POINT |  
思・判・表

目標を明確にして指導内容（評価規準）を焦点化する

中学校は来年度、教科書が改訂される。そのたびに、教材研究をやり直したり、教材価値を見直したりするなど、業務の負担感が増すことだろう。しかし、教材が変われど、子どもたちに付けたい力は変わらないはずだ。やはり一番大切なことは、教材と学習指導要領にどのような結びつきがあるのかだと私は考える。特に、「単元計画を熟考し、計画的に授業を行うこと」である。

下図は一例であるが、指導書に書かれていたものと、それを変更して焦点化したものである。指導書の内容は、教材から考えられる価値を満遍なく使えるように設定されている。そのため、目標に複数の項目が反映された書き方となり、評価規準も複数存在する。

しかし、実際の指導において、これらを満遍なく指導し、評価を行うのは難しい。そこで、教師側が「指導内容を焦点化」することで指導と評価が行いやすくなるのではないだろうか。

単元の目標（指導書）	（改善案）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の展開や登場人物の心情の変化を、描写に基づきながら捉える。[C(1)イ]</li> <li>・語り手に着目して作品を読み、意見を交流するなどして、自分の考えを確かなものにする。[C(1)オ]</li> </ul>	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにできる。[思考力・判断力・表現力等] C(1)オ
単元の評価規準（指導書）	（改善案）
①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係（特に語りと構成について）、また心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。[C(1)イ] ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。[C(1)オ]	①「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。[C(1)オ]

【単元目標と単元評価基準の書き方例】

「指導内容の焦点化」は、教師にとっては授業のやりやすさに直結すると考える。単元で身に付けたい力を考え、学習目標を一つに絞ることで、評価基準も明確にできるだろう。また、指導内容を焦点化することで、言語活動もより妥当性の高い活動になると考えられる。

実際、『少年の日の思い出』の授業において、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく」の評価規準に焦点化して授業を行った結果、子どもたちから出てくる考えがより具体的で明確な内容となった。これは「自分の考えを明確にして書く」力に直結するものだといえるだろう。

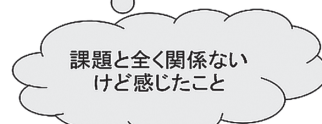
なぜ盗みを犯したのか(3つの考え)

【1. とにかくヤマムユガが欲しかった】  
 「ヤマムユガほど僕が熱烈に欲していたものはなかった」  
 「僕はすっかり興奮して」「誘惑に負けて」  
 などなど文中にあるため、僕のヤマムユガの欲しさは相当強い。従って、あまりの欲しさに盗んでしまったのだと考えた。



【この文章すごい都合のいいように語ってる】

僕は、蝶を盗んだ後大きな満足感のほか何も感じていなかった。だが、階段を降りている途中、下の方からの足音で僕の良心は目覚めた。今まで、「誘惑に負けた」なども書いていて盗む気満々だったのに、急に良心を取り戻して下劣な奴だということを悟ったなんて都合のいいことだと思う。前から僕は性格が悪かったので、この話を語るときに自分は悪者だと思われぬように、都合のいいように捏造したのだと思った。



【実際の子どものプレゼン例】

また、「評価規準の焦点化」は子どもたちの授業の受けやすさにもつながってくるのではないだろうか。どのようなことを深め、どのような力を目指せばよいのか、それらが焦点化されることで、子どもたちの活動がより洗練され、学びの多い授業になると考える。

## 子どもの主体性を引き出す

音更町立音更中学校 教諭 佐藤 悠樹



### POINT 2 態度

### 子どもの「主体性」を引き出す ICT の工夫

指導内容の工夫や改善を行っていく中で大切なのは、子どもたちが自ら学ぼうとする意欲だと考える。私は以前、主体性を引き出す手立てとして、「パフォーマンス課題とルーブリック評価」を例に記事を寄稿した。そこから、さらに子どもたち自身の課題とするために行っている、ICTを活用した「課題出し」を紹介したい。

使用したのは「Padlet」で、Webブラウザで使えるオンライン掲示板アプリだ。これを利用して、子どもたちの教材に対する興味や課題に感じること・ものを表出させる。その後、教師と一緒に選別し、子どもたちが出した考えの中から単元の課題を決定していくのである。「課題出し」を子どもたち自らが行うことによって、「自分の考えが反映」された授業となり、課題に対して自分事として考えることができる子どもが増える結果となった。特に、心情の読み取りにおいては、子どもたち自身が前のめりに考察を重ねる姿を見ることができた。

ただし、子どもたちが出した考えを手当たり

次第に使用するのではなく、教師側があらかじめどのような単元の終末を迎えたいか考えておく必要があると考える。そのため、「POINT 1」で取り上げた単元の目標や評価規準が重要になっていくのではないだろうか。また、目標に準じた言語活動の大枠も決めておく必要があるだろう。子どもたちが「自ら考えた課題」を自分たちで解決していこうとする形を、子どもたちと一緒に目指したい。

しかし、子どもたちの中には「自ら課題を考える」ことが苦手な子どももいるだろう。その際には、教師側の「おすすめ」を用意しておくことも大切だと考える。教師側の考えと子どもたちの出した課題を混ぜながら「課題出し」を行うことで、少しずつ子どもたちが課題の出し方を学んでいくのではないだろうか。

子どもたちの内面にある考えを ICT によって「見える化」し、子どもたちが取捨選択した課題を設定することで、子ども自身の「主体性」を引き出せるのではないだろうか。

sato yuki + 26 • 1分未満

### 少年の日の思い出 課題出し

1 ~ 11	12 ~ 22	23 ~ 33
+	+	+
04 蝶をバラバラにしたのはなぜか? ♡3 🗨️0	14 なぜ盗みをしたという気持ちより潰してしまったチョウを見ているほうが僕の心を苦しめたのか ♡2 🗨️0	26 なぜ最後に指でチョウを粉々にしてしまったのか ♡0 🗨️0
05 なぜエーメールは軽蔑するだけじゃ		27

【Padlet を活用した課題出し例】